

# 留学報告書 II (2022 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	慶應義塾中等部・2年
留学先校名	Eaglebrook School
留学期間	2022年 9月から 2023年 5月まで

## 留学を振り返って

### 留学先では、期待どおりの生活を過ごせましたか？（留学先の良かった点・悪かった点も教えてください。）

Eaglebrook での生活は期待以上の充実した時間となりました。僕は留学前は自分の英語力を不安視していたのですが、友達、先生のサポートや自分から積極的にコミュニケーションを取ることで英語力も大幅に改善することが出来、最後はほぼ困ることはなくなりました。Eaglebrook の良い点は、アットホームな雰囲気です。生徒に対してとても献身的にサポートしてくださるところだと思います。一方で、寮では決まった時間にテクノロジーが使えなくなるルール（テックタイム）や就寝時間などが厳しく設定されているので、寮生活に慣れるまでは不自由に感じるかもしれません。しかし、このような規則正しい生活の甲斐あって、翌日の授業やスポーツなどに集中できると感じました。また、キャンパス外に出てどこかに行くという機会はクラブ活動やスポーツの試合以外めったにないため、日常的なアメリカンライフを実体験する機会は限られていました。

### クラブ活動や課外活動など、学業以外の活動について教えてください。

Eaglebrook には学期ごとにスポーツをたくさんの選択肢から選べるため、日本では経験できないようなスポーツにも挑戦することが出来ます。僕は秋はマウンテンバイク、冬は競技スキー、春は varsity の野球チームに所属していました。それぞれのスポーツにはレベルごとに分けられた複数のチームがあり、学期はじめにあるトライアウトにて varsity やそのほかのチームに振り分けられます。僕はマウンテンバイクに初めて挑戦したのですが、その練習初日に広大な山の中でいきなり遭難をしてしまいました。助けを求め叫んでも、誰からも返事が来ず、辺りは暗くなっていく一方だったのですが、なんとか小道を見つけ、その後自力でキャンパスに戻ることができました。しかしそれ以来マウンテンバイクの練習がトラウマになってしまった上、毎回の練習で転んで怪我をしてしまったので、何度もやめたいと思いました。けれども、仲間の支えもあり、10月のレースでは全体90人の中で、一番下位のチームにいながら19位に入賞することが出来ました。この経験から何事も挑戦していれば報われると知り、練習がハードで有名な競技スキーにも挑戦し、大会で活躍することが出来ました。僕の得意スポーツである野球では、Varsity チームに入り、主にピッチャーとショートとしてチームに貢献しました。

また Eaglebrook にはスポーツ以外にもさまざまなクラブがあります。僕は Robotics、Math club、Sustainable committee に参加しました。Robotics では FTC competition という大きな大会に向け毎週日曜日にミーティングを行い、そこでロボット制作、プログラミング、ロボットの操作などを行いました。1、2月に行われた大会では、play off にも出場して、チーム成績としては大会全体で4位入賞を果たすことが出来ました。僕は操縦士としてチームに貢献しました。Math club では同じ寮にいる友達のために math tutor を行う一方、math competition に参加して、大会で2位を受賞することが出来ました。

学校の先生からの大きな信頼も受け、4月には Eaglebrook の理事達の前で、Eaglebrook の数学教育がどのように日本と違うかスピーチを行いました。Sustainable committee では環境問題についてディスカ

ッションを行い、キャンパス内に植物を植えたり、他校を訪れて地球温暖化の解決策について話し合ったりしました。

このようなクラブ活動のほか、週末の活動としてウォーターリフティング、ハイキング、キャンプのほか、音楽コンサート、映画鑑賞などや、キャンパス外へのショートトリップもあるため、週末も退屈せず過ごすことが出来ました。

**ルームメイトはどのような方でしたか？(1人部屋だった場合は、同じ寮の友人について教えてください。)**

僕のルームメイトはメキシコから僕と同じように一年間のプログラムで来た子で、僕らはよく夜にお互いの国のことやスポーツ、政治、学校生活について話し、気づいたら日付を回っていたことも度々ありました。彼と話すことで文化や価値観、考え方の違いを感じ、話すたびに様々な新しいことを吸収することが出来ました。例えば、僕が一人で学校に行っていると告げると、彼は大変驚いていました。メキシコでは子供が一人で歩くのは誘拐されるなど危険なので、親が毎日子供の送り迎えをするのが当たり前で、日本のように子供一人で外を出歩くことはまずないと教えてくれました。お互いの言語を教えあったり、一緒にサッカーをしたこともありました。僕の寮には四学年約30人の生徒と4人の先生が暮らしていて、アメリカ、イギリス、オーストラリア、メキシコ、中国、韓国、タイ、ナイジェリアなど様々な国々から来ているグローバルな環境でした。毎週土曜日夜には先生がピザやアイスクリームなどを用意してくれて、みんなでパーティーをする機会があります。寮対抗のスポーツ大会や寮ごとのキャンプなどイベントは寮単位で動くことがよくありました。

**学業について**

**各授業について授業の内容・進め方・課題・試験・日本との比較などについて触れながら記入してください。**

授業は平日6時限まであり、クラス全体ではAからGまでの7クラスを毎日ローテーションしていました。そのため一つの科目は一週間に少なくとも授業が4回あり、僕のいた中等部と比べて一つの科目により集中することが出来ました。7クラスのうち、2クラスは選択科目の授業で、数あるアートや音楽などのクラスの中から自分の受けたい授業を取ることが出来ます。他5クラスは自分の選択した言語と数学、英語、理科、社会科の授業で、これらのクラスは一年間クラスメイトも先生も変わらず行われます。授業は実践的な内容を扱うことが多く、例えば数学の先生は元々証券会社で働いていたので、その経験をもとに投資の話を変えながら関数の説明をしてくれました。また、多くのクラスはDebateをしながら進められましたが、相手の意見を否定せず認めたいうえで自分の主張をしながら議論が展開されました。

Eaglebrookでは先生一人につき生徒3人と、生徒の数に対して先生の数が多いので、1クラスは多くとも生徒12人、少ないと3人のクラスもあります。そのため、授業中にうまく理解できなかった問題についても簡単に先生に質問することが出来、先生たちも親身になって答えてくださいました。多くの先生は丁寧に説明をしてくださいますが、同じ授業が平日はほぼ毎日あるので、授業の進度は早かったです。

Eaglebrookと慶應義塾の学業に対する大きな違いとして課題の量が挙げられます。僕のいた中等部では課題の量は決して多くなかったのですが、Eaglebrookでは毎日一科目につき一つは宿題が出されていて、それらを授業後にあるstudy hallという勉強時間に終える必要がありました。中等部の場合、試験に重きをおいているため、中間考査や期末考査といった大きな試験が学期ごとに行われていましたが、

Eaglebrookでは特にそのような大きな試験はなく、学期末になるとその学期の復習の試験がいくつかのクラスでは行われました。しかし、試験結果が成績の大部分を占める中等部と違って、Eaglebrookでは試験

よりもクラス内での participation (クラスへの貢献度) や課題の評価、プレゼンテーションなどが重要とされ、成績に加味される大きな項目だと感じました。

## 今後について

### この派遣留学を通して、自分自身にどのような変化があったと感じていますか。

僕は今回の派遣留学を通して、人間的にとっても成長することが出来たと感じます。留学前までは海外に住んだ経験がなく、僕の英語は流暢ではなかったため、留学当初は友達が話している内容を理解できないことも多々ありました。しかし、自分から積極的に友達や先生と話すことによって、徐々にコミュニケーションがうまくとれるようになり、英語力も大幅に向上し、日常生活には全く困らなくなりました。授業では、ディスカッションする機会が多くあり、様々な国から来た違った価値観や考え方を持つ生徒たちとコミュニケーションを取るによって、自分自身の視野が広がり、新しい考え方や相手の意見を尊重できるようになりました。

また、学校内外で様々なことに果敢に挑戦するようになりました。例えば、Ted Talk の Eaglebrook バージョンである EBS Talk では、全校生徒の前で春休み中に行ったフィリピンでのボランティア活動について、スピーチを行いました。日本では経験することのできないマウンテンバイキングや競技スキーを通じて、困難に打ち勝つことが出来る自信もつき、日本に帰っても様々なことに先入観を持たずに挑戦していきたいと思います。

## 今後の派遣留学生へのアドバイス

Eaglebrook は日本人生徒が少ないため、日本人としての Identity を示すためにも日本のことをもう一度よく知り、Eaglebrook の生徒たちに伝えられるように準備しておくが良いと思います。多くの人が日本について僕に質問することがあり、僕はルームメイトや友達に日本の文化や歴史などを伝える機会が多々ありました。また、日本のお菓子や文房具、伝統工芸品などは先生や友達に大変喜ばれます。特に僕が日本から持ってきたカップラーメンは大人気で寮の友達が毎晩僕のところにやって来てカップラーメンが欲しいと交渉してきました。いくつかお土産を用意しておくとういと思います。多くの生徒が部屋に自分の国や地元チームのユニフォームを飾り、ジャージーデーやハロウィンなどで着る機会もあるので、持っていくとういと思います。

以上

